

【分析結果】

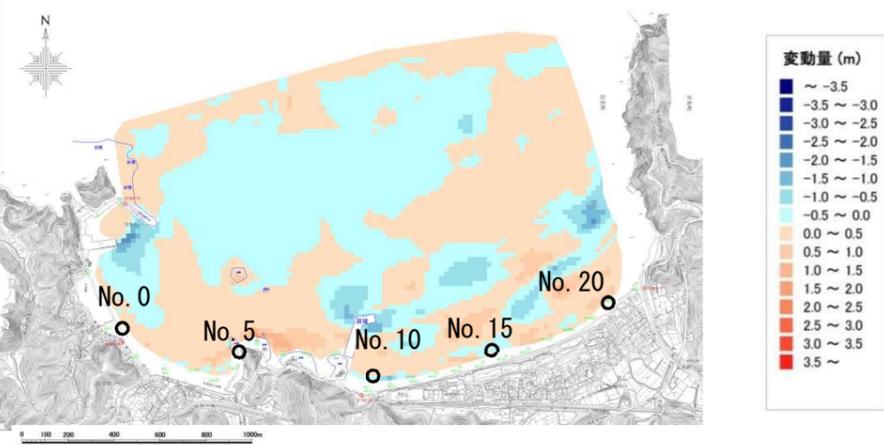
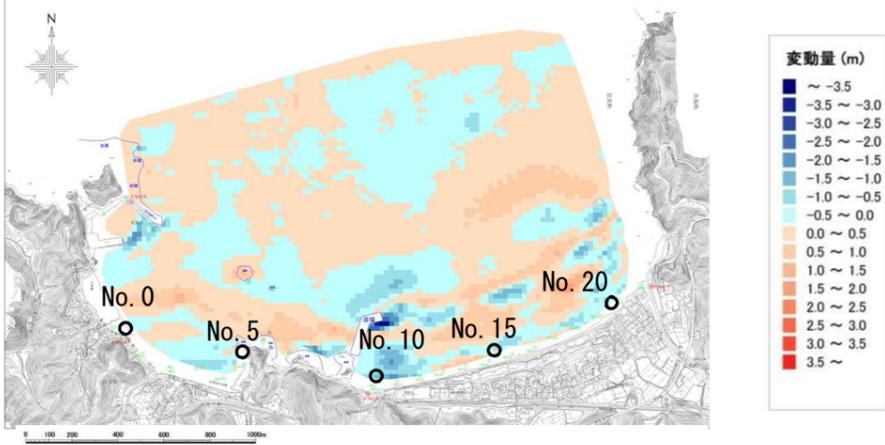
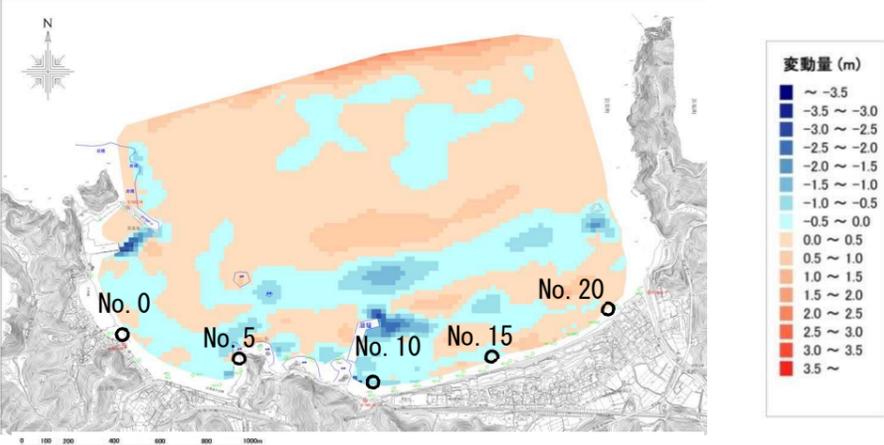
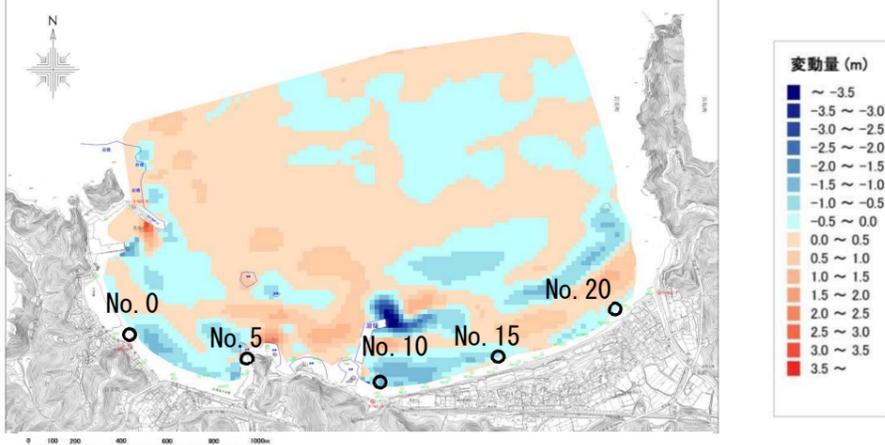
長期的分析（夏季後）	長期的分析（冬季後）
平成 18 年 9 月から平成 24 年 9 月(6 年間)	平成 18 年 9 月から平成 25 年 3 月(6.5 年間)
	
<ul style="list-style-type: none"> • No.5 東部の岩礁帯において、2.0m 程度の堆積傾向がみられた。 • 潜り突堤（No.10）の沖側の先端部で地盤の低下傾向を示した。 • 西側海岸（No.0～No.4）は、東側海浜に比べると地盤高の侵食量は少なく、安定傾向を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 全体的に変動量が-2m～2m となっており安定傾向となっている。 • 潜り突堤（No.10）の東側及び沖側の先端部で地盤の低下傾向を示した。 • 山の張り出し部（No.5～No.10 の間に存在）の沖側は堆積，侵食が見られる。 • 西側海岸（No.0～No.4）は、東側海浜に比べると地盤高の侵食量は少なく，安定傾向を示している。
平成 18 年 9 月から平成 25 年 9 月(7 年間)	平成 18 年 9 月から平成 26 年 3 月(7.5 年間)
	
<ul style="list-style-type: none"> • 東漁港および潜り突堤の北部で 3m 程度の侵食傾向となっていた。 • 潜り突堤（No.10）の東側及び沖側の先端部で地盤の低下傾向を示した。 • 山の張り出し部（No.5～No.10 の間に存在）の沖側は堆積，侵食が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 東漁港付近で 3.0m 程度の堆積がみられた。 • 潜り突堤（No.10）の東側及び沖側の先端部で地盤の低下傾向を示した。 • 東漁港の港口部の堆積傾向が見られる。

図 2.3.7 標高差分図（長期的分析）

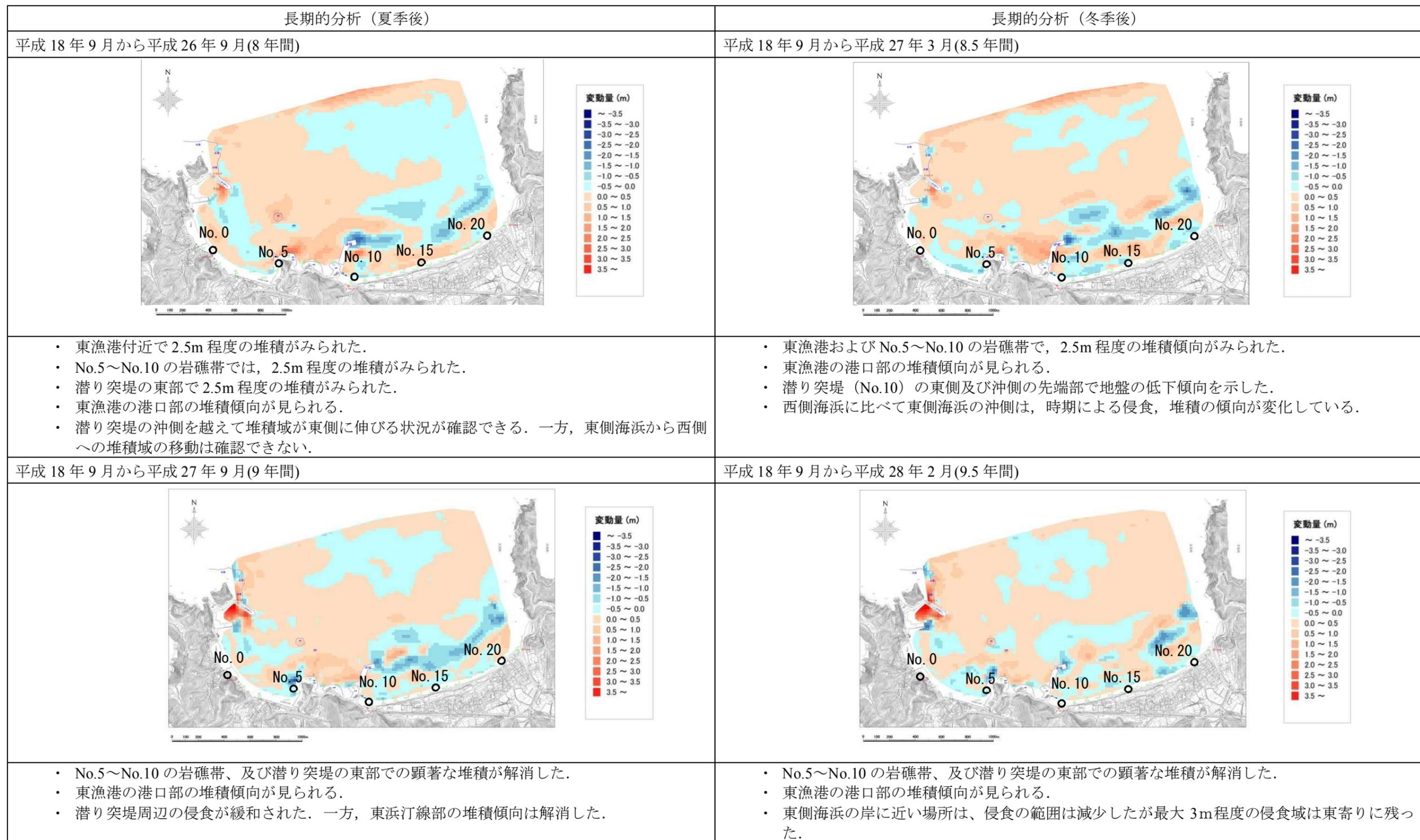


図 2.3.8 標高差分図（長期的分析）

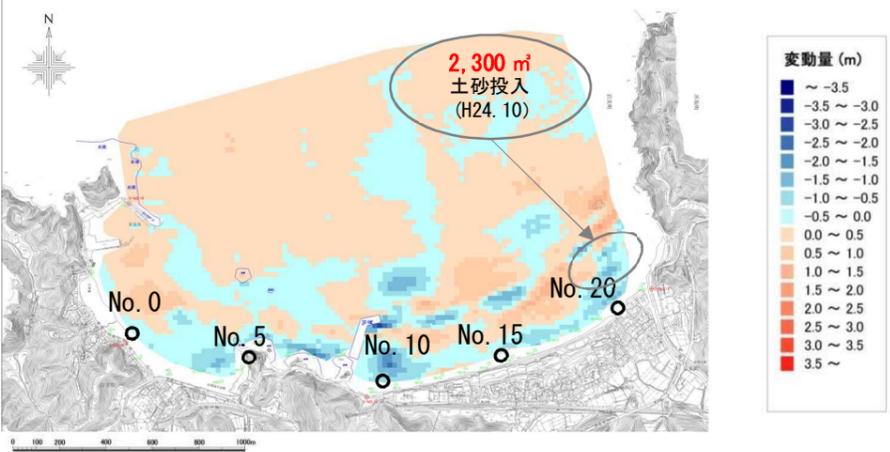
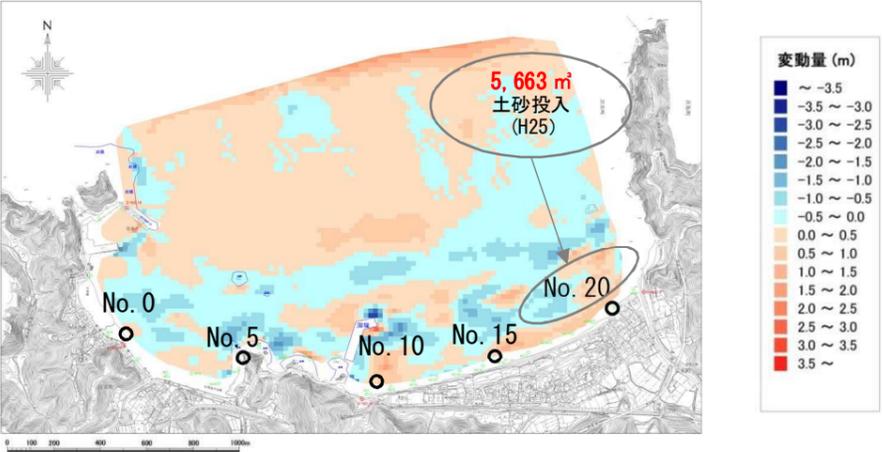
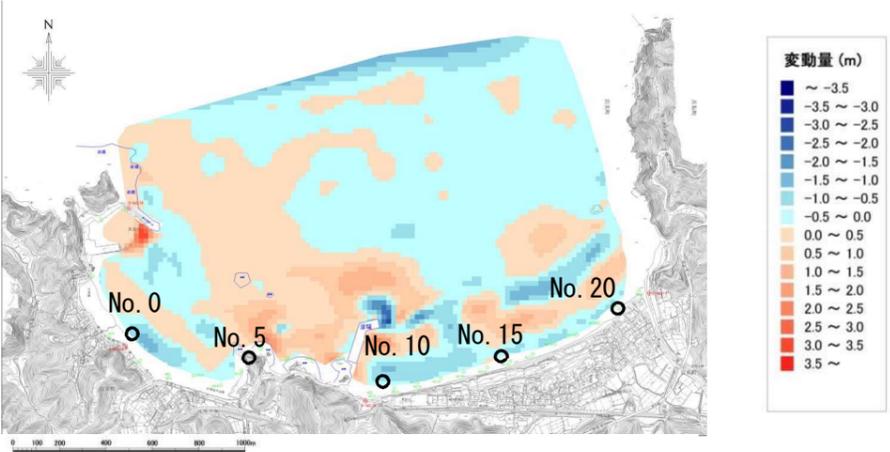
短期的分析 (冬→夏)	短期的分析 (夏→冬)
	<p data-bbox="1460 268 1994 300">平成 24 年 9 月から平成 25 年 3 月(6 ヶ月間)</p> 
	<ul data-bbox="1528 850 2516 945" style="list-style-type: none"> ・ 汀線付近は 2.0m 程度の侵食傾向となっていた. ・ 潜り突堤 (No.10) の東側及び沖側の先端部で地盤の低下傾向を示した. ・ 山の張り出し部 (NO.5~NO.10 の間に存在) の沖側は堆積, 侵食が見られる.
<p data-bbox="207 961 742 993">平成 25 年 3 月から平成 25 年 9 月(6 ヶ月間)</p>	<p data-bbox="1460 961 1994 993">平成 25 年 9 月から平成 26 年 3 月(6 ヶ月間)</p>
	
<ul data-bbox="281 1543 1261 1606" style="list-style-type: none"> ・ 潜り突堤の北部で 3m 程度の侵食がみられた. ・ 山の張り出し部 (NO.5~NO.10 の間に存在) の沖側は堆積, 侵食が見られる. 	<ul data-bbox="1528 1543 2686 1690" style="list-style-type: none"> ・ 東漁港付近で 3.0m 程度の堆積がみられた. ・ No.5~No.10 の岩礁帯は 2.5m 程度の堆積傾向となっていた. 潜り突堤 (No.10) の先端部が大きく侵食されていることから、この付近で高流速が生じて西側海岸に砂が異動している可能性がある.

図 2.3.9 標高差分図 (短期的分析)

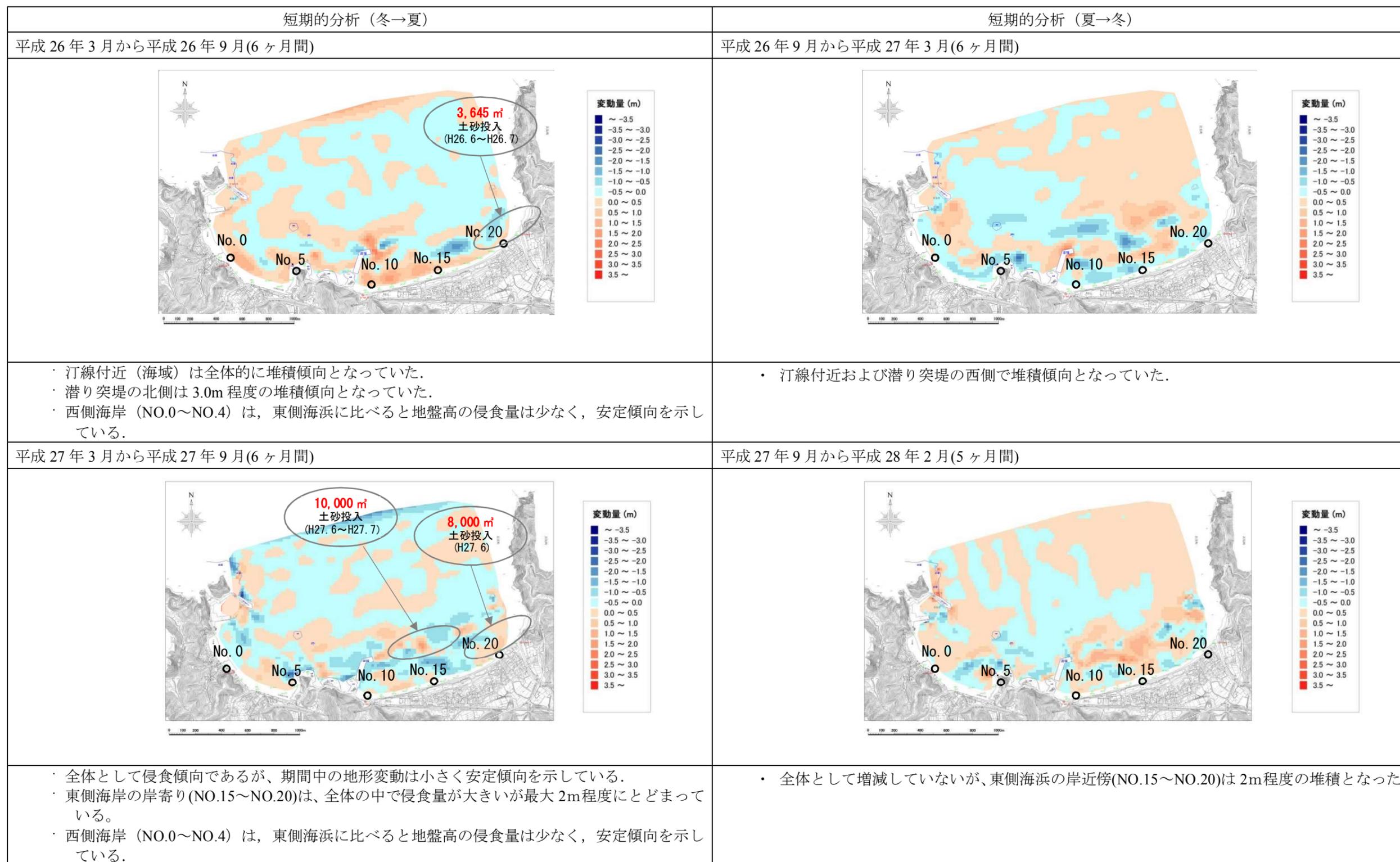


図 2.3.10 標高差分図 (短期的分析)

※参考までに、標高差分図の作成時に使用した等深線データを以下に示す。

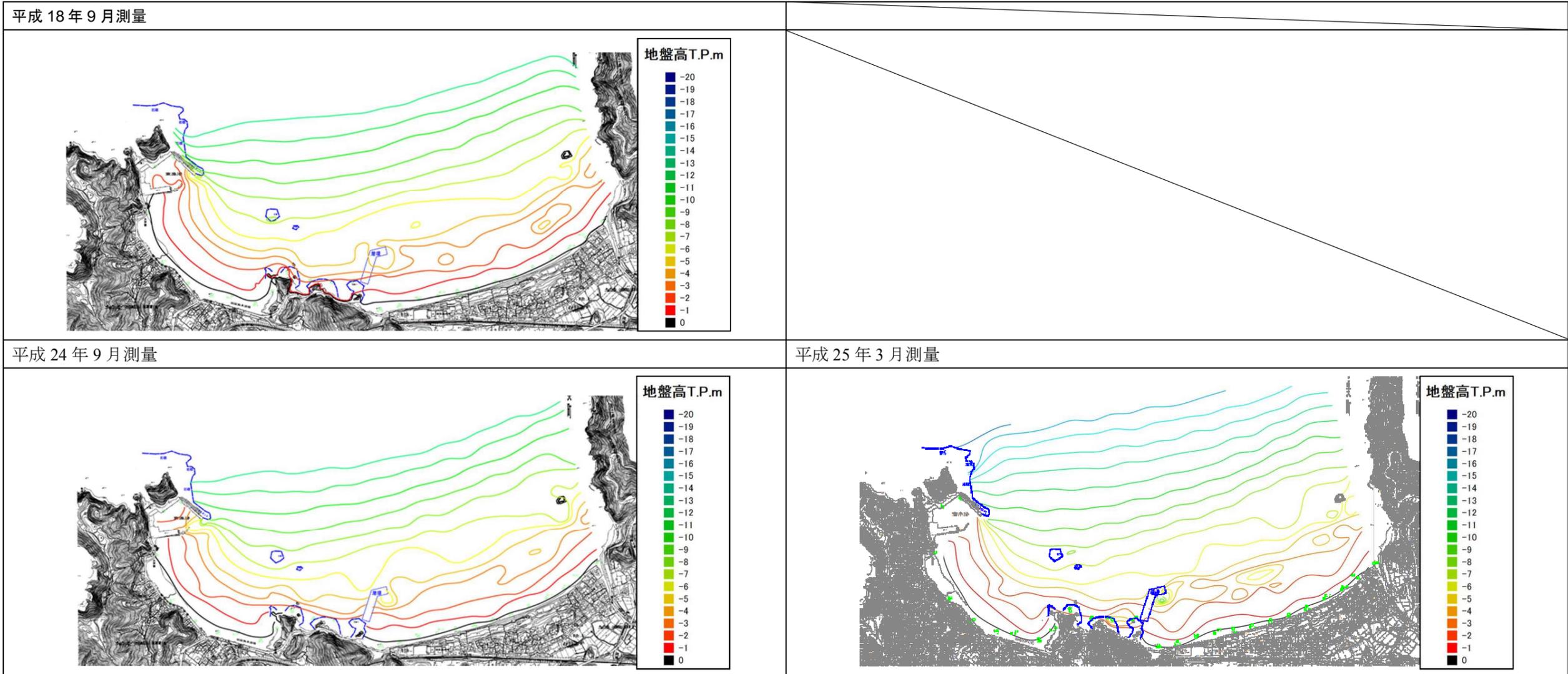
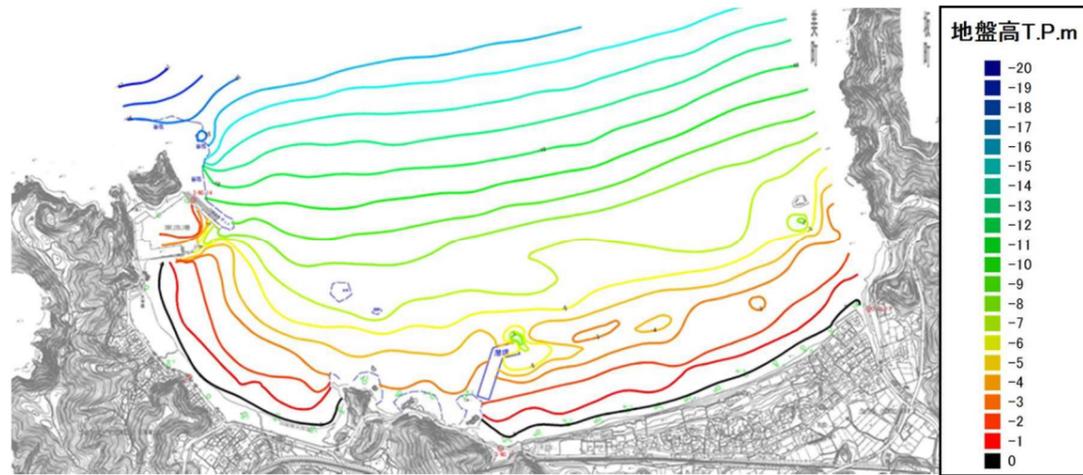
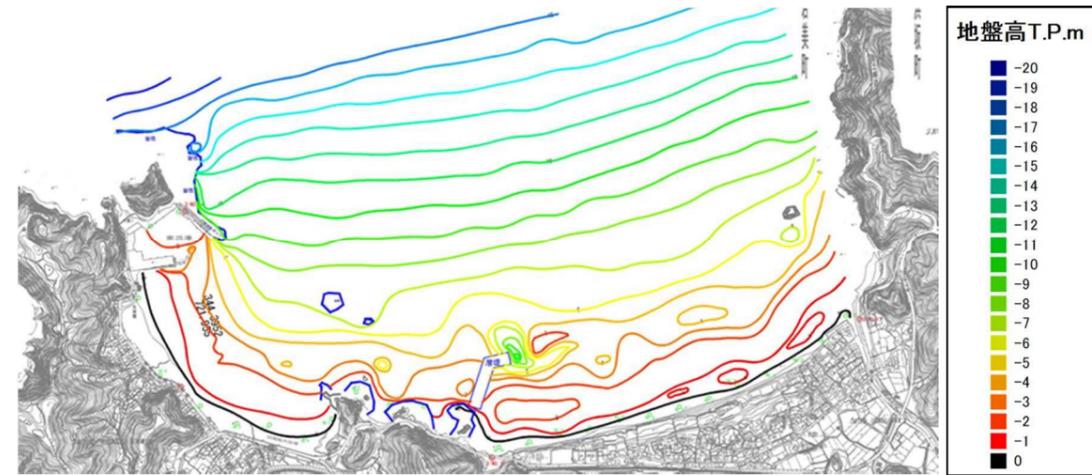


図 2.3.11 岩美海岸（陸上地区）の等深線図

平成 25 年 9 月測量



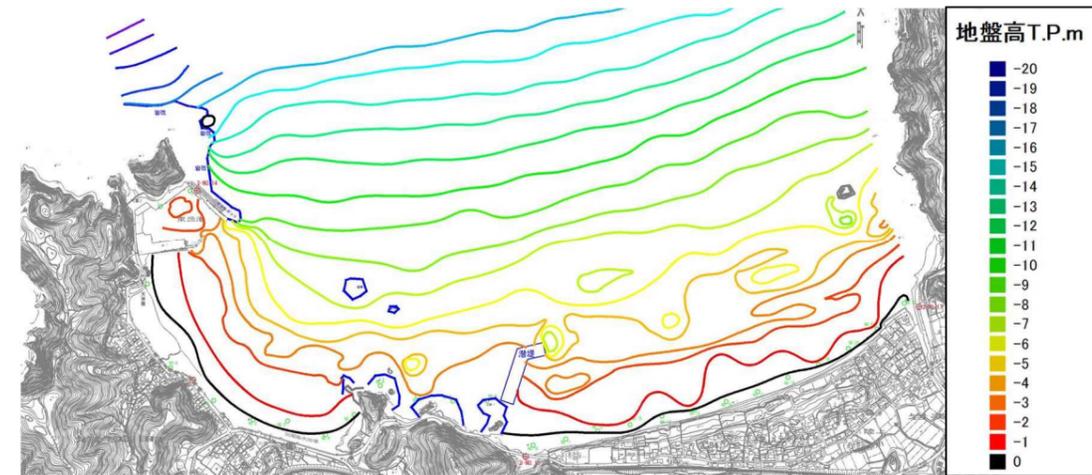
平成 26 年 3 月測量



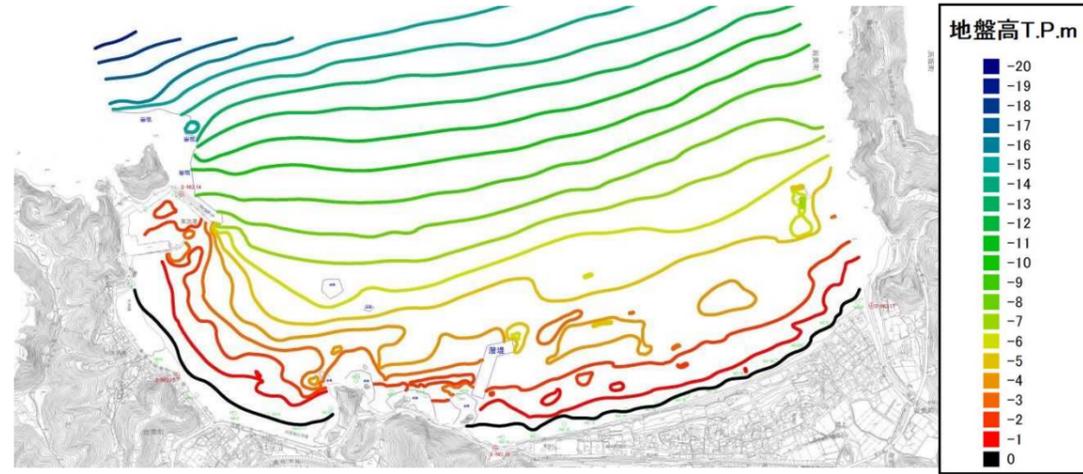
平成 26 年 9 月測量



平成 27 年 3 月測量



平成 27 年 9 月測量



平成 28 年 2 月測量

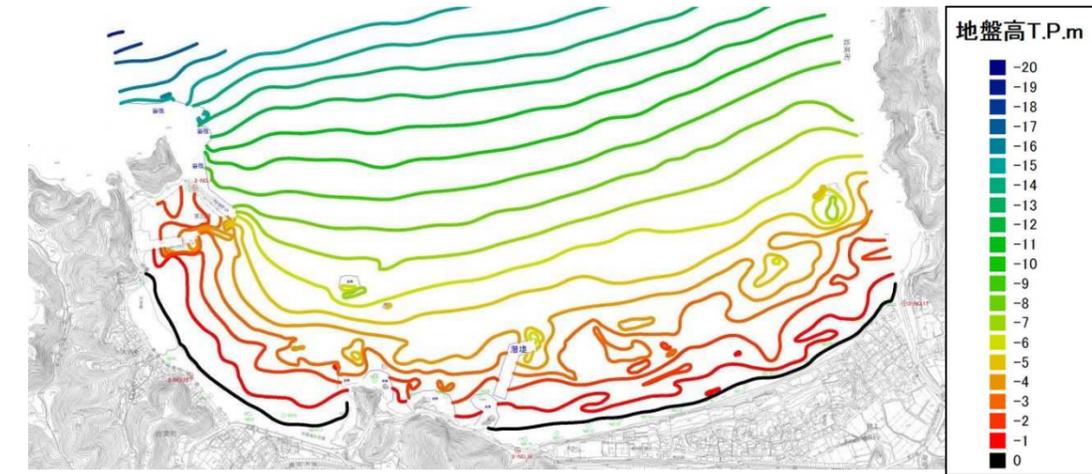


図 2.3.12 岩美海岸（陸上地区）の等深線図

2.3.4 浜幅分析

(1) 概要

当浜幅分析は、前述の分析が『ある年度の汀線を基準とした相対的な評価』に対し、『浜幅の絶対量を示しその変動を評価』するものである。

本分析では、浜幅の目安を、『防護』『利用』から設定をしており、防護面については打上げ高計算より25m、利用面については海水浴利用の観点から40mに浜幅を設定し、評価を行っている。

(2) 分析

- ・ No.13 付近について、平成27年3月には汀線の後退がみられるが、直近の測量結果では前進傾向が確認され、利用面の浜幅を満たす結果となっている。
- ・ 防護面においては概ね満たしているものの、当海岸は海水浴場として利用される箇所であるため、利用面の浜幅からも注視していく必要がある。

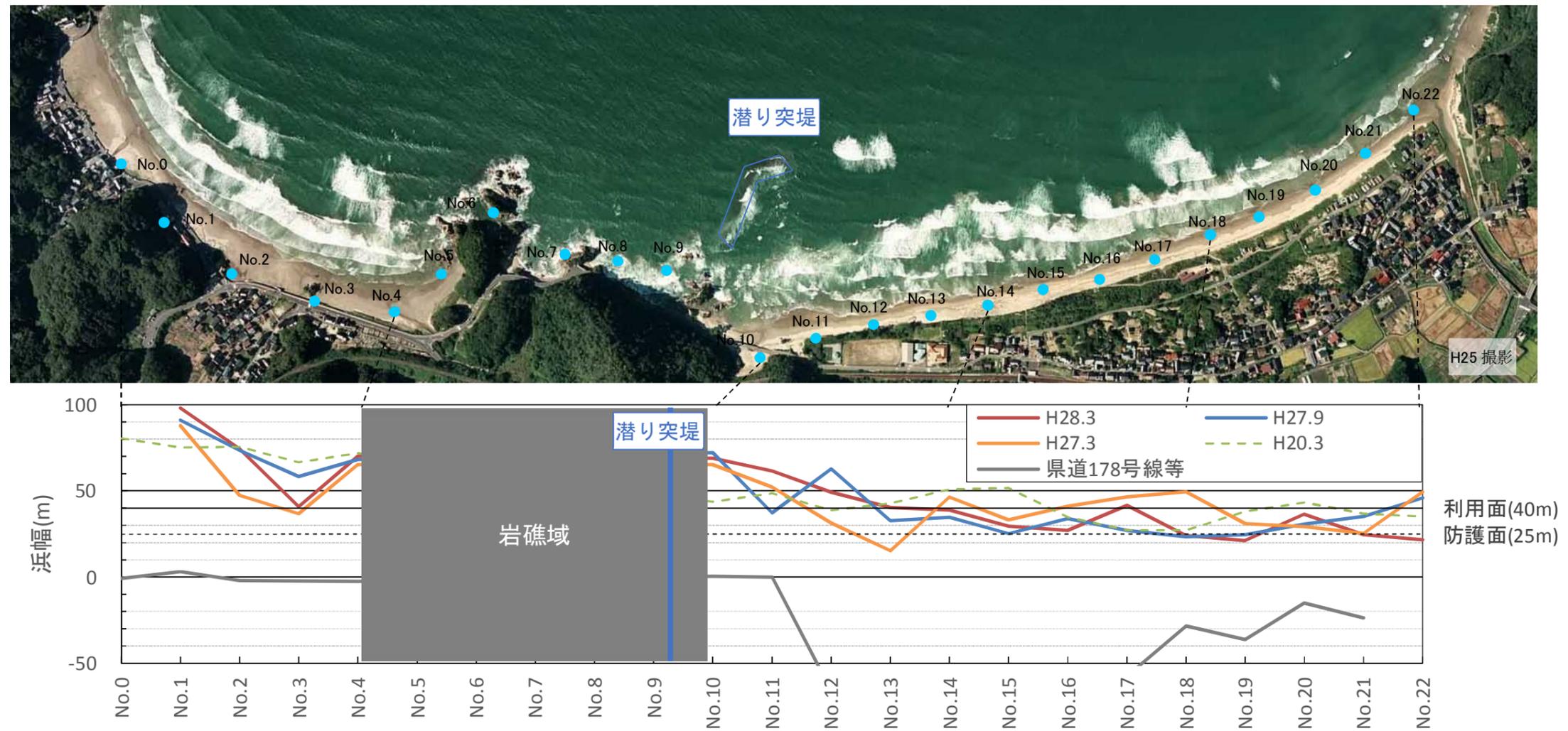


図 2.3.13 目安となる浜幅

2.4 問題点および今後の方針

- ・ 近年は季節的・局所的な変動が大きく、汀線については、常に注視が必要である。
- ・ 近年のサンドリサイクルにて、汀線の安定については、一定の効果はあると考えられる。しかし冬季風浪等により、局所的に大きな浜崖・侵食も発生しており、応急的な対応していく必要がある。
- ・ 平成27年度測量においては、海上養浜による明らかな汀線等の変化は見られなかったが、今後2ヶ年の養浜・モニタリングにてその影響を確認していきたい。

2.5 測線毎の汀線経年変化 (参考資料)



図 2.5.1 測量基点位置 (岩美海岸 (陸上地区))

表 2.5.1 岩美海岸 (陸上地区) における汀線変化

年代	H18.3	H18.9	H19.3	H19.9	H20.3	H20.9	H21.3	H21.9	H22.3	H22.9	H23.3	H23.9	H24.3	H24.9	H25.3	H25.9	H26.3	H26.9	H27.3	H28.3
汀線の経年変化	<p>羽尾海岸</p> <p>東浜海岸 陸上海岸</p>																			
	<p>採取場所別土砂投入量</p>																			
人為的 改変	<p>東漁港建設 (S41~H12) 潜り突堤建設 (H16~H17) 陸上川砂防堰堤 (S29~H11)</p>																			
	備考	年度 9 / 19	7 / 15	10 / 27					10 / 8	8 / 12	10 / 30	5 / 30	9 / 21	10 / 19		10 / 16	8 / 10	10 / 14		
	台風13号来襲	台風4号来襲	台風20号来襲(他3個)					台風18号来襲	台風4号来襲	台風14号来襲(他1個)	台風2号来襲(他1個)	台風15号来襲(他1個)	台風21号来襲		台風26号来襲(他5個)	台風11号来襲	台風19号来襲(他1個)			